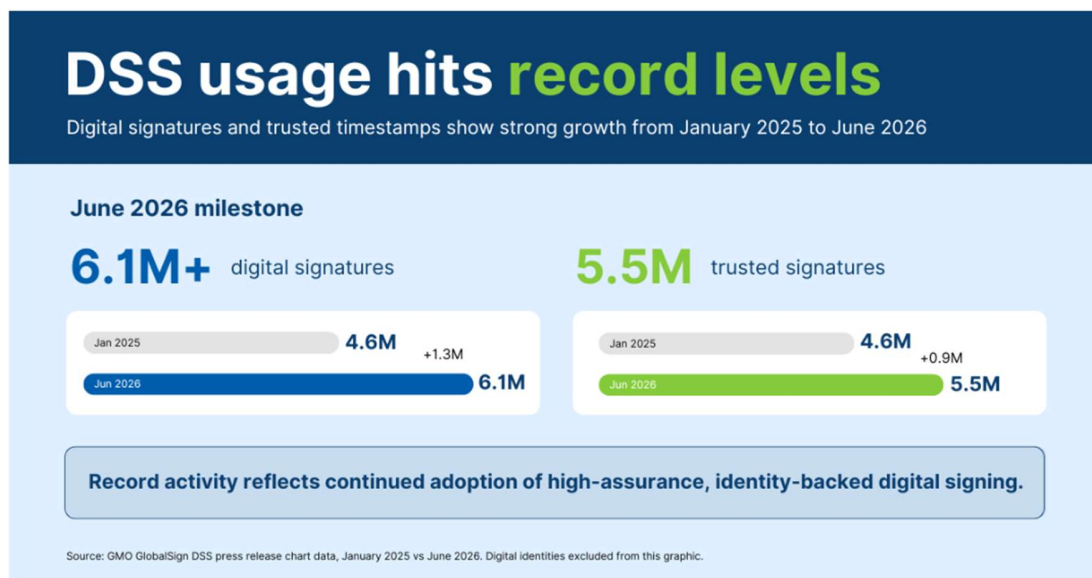


2026 年 9 月 17 日
GMO グローバルサイン・ホールディングス株式会社

GMO グローバルサインの DSS(Digital Signing Service)月間署名数が過去最高の 600 万件を突破

AI 時代に高まる「信頼できるデジタル署名」の重要性

GMO グローバルサイン（米国・ボストン）は、デジタル ID に基づく高信頼なデジタル署名やタイムスタンプをクラウドおよび API を通じて提供する「Digital Signing Service（DSS）」において、2026 年 6 月のデジタル署名数が初めて 600 万件を突破し、過去最高を記録したことを発表しました。タイムスタンプの利用数も 550 万件を超え、過去最高水準となりました。



近年、企業の業務プロセスではペーパーレス化やクラウド化が進んでいます。契約書をはじめとする重要文書の署名・承認も、デジタルへと急速に移行しています。さらに、生成 AI をはじめとする AI ツールの企業利用が拡大する中、デジタル上で取り扱われる情報や文書について、「誰が作成・署名したものなのか」「内容が改ざんされていないか」といった真正性や完全性を確認する重要性が、これまで以上に高まっています。

こうした環境の変化により、企業には単に業務をデジタル化するだけでなく、安全性や法令・規制への対応を担保したデジタルプロセスを構築することが求められています。本人性を確認できるデジタル ID、文書の完全性を保証するデジタル署名、信頼できるタイムスタンプなどを組み合わせた高信頼なデジタルトラスト基盤（デジタル上での本人確認・非改ざん性を支える仕組み）は、今後の企業活動を支える重要なインフラの一つになりつつあります。

DSS は 2017 年の提供開始以降、年間利用数が提供開始当初と比較して約 5 倍に拡大しており、2026 年 6 月にはデジタル署名数が 6,136,107 件に達しました。2025 年 1 月の 4,624,412 件と比較すると、約 1 年半で 150 万件以上増加しています。

この利用拡大の背景には、リモートワークの定着、紙による文書署名の減少、各国における規制整備、さまざまな業界における文書ワークフローのデジタル化に加え、AI の急速な普及があります。

幅広い業界で高まるデジタル署名のニーズ

デジタル署名の活用は、さまざまな業界で広がっています。

金融業界では、大量の契約処理や厳格な監査要件、国境を越えた取引の増加を背景に、署名者の本人確認や文書の真正性を担保できる仕組みが求められています。

ヘルスケア分野では、機密性の高い情報を安全に取り扱うための暗号化や監査証跡に加え、既存の医療情報システムとの連携が重要となっています。

政府・公共分野では、行政手続きのデジタル化が進む中、法的拘束力を持つ文書における本人確認や、文書が改ざんされていないことを確認する仕組みの重要性が高まっています。

また、テクノロジー・サイバーセキュリティ分野では、CRM や ERP、文書管理システムなどに署名機能を組み込むニーズが拡大しており、API を活用して既存システムと柔軟に連携できる署名基盤が求められています。

AI によるコンテンツ生成や業務自動化が広がるほど、デジタル上の情報について「誰が発信・署名したものなのか」「改ざんされていないか」を確認するための仕組みが重要になります。GMO グローバルサインは、デジタル ID と公開鍵基盤（PKI）を基盤とするデジタル署名を通じて、AI 時代におけるデジタル情報の信頼性確保と、安全なデジタルビジネスの実現を支援してまいります。

プレスリリース原文（英語）：<https://www.globalsign.com/en/company/news-events/news/digital-signing-service-hits-all-time-record>

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO グローバルサイン・ホールディングス株式会社

社長室 広報担当 大月・遠藤

TEL : 03-6415-6100

お問い合わせ：

<https://form.gmogshd.com/contact/pr/>

【サービスに関するお問い合わせ先】

●GMO グローバルサイン株式会社

トラスト・ログイン事業部 小原

TEL : 03-4545-2308

E-mail : support-jp@globalsign.com